

令和5年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

一人ひとりの夢と志を育み、よりよい未来社会を創り出す学校

- 1 「進取・創造・敬愛」の校訓のもと、早くから興味・関心の現れやすい「4つの分野(ものづくり<理工>、スポーツ、言語、芸術<美術・デザイン>)」の才能を6年間の計画的・継続的な一貫教育で伸ばし、「大阪の発展を担う将来のスペシャリスト」を育成する。
- 2 安全・安心な教育環境のもと、専門性・多様性・交流性・一貫性を生かしたカリキュラム・マネジメントを通して、確かな学力や高め合う集団、自主自立の習慣を育成し、学びと育ちの質を高めながら一人ひとりの生きる力や個性の伸長をめざす。
- 3 併設の咲くやこの花高等学校(以降、高等学校)や地域社会、専門機関等の様々な人々との連携・協働を通して、一人ひとりのキャリア発達を促すとともに、豊かな人権感覚を育み、夢と志の実現に向けて、新たな価値を創造する意欲や態度を培う。

2 中期的目標

1. 特色ある教育環境のもと、学びと育ちの質を高める

(1) 確かな学力を育成する

- ア 校内研究授業や授業アンケート(1学期・2学期)を活用し、「主体的・対話的で深い学び」や「教科等横断的な学び」「言語活動の充実」等の視点を生かした授業・単元の工夫・改善を進めていく。
- イ ICT環境を充実させるとともに、1人1台端末をはじめ、ICT機器やデジタル教材を有効に活用した授業を実施する。また、ICTを活用した「個別最適な学び」や「協働的な学び」に関する研修を行う。
- ウ 学力調査(全国学力・学習状況調査、大阪府チャレンジテスト、学力推移調査)を活用し、生徒の学力実態や学習の状況を把握することで、授業改善を進め、一人ひとりの資質・能力のよりいっそうの定着を図る。

※(生徒対象)学校教育自己診断、「学校のさまざまな取組で、考える力や自主性をのばすことができる」の項目で、肯定的な回答の割合を令和7年度には90%を維持する。(R2:85% R3:88% R4:90%)

(2) 高め合う集団を育成する

- ア 学校行事や委員会活動への取組を通して、集団の中で役割を分担しながら、チームワークやリーダーシップについて学ぶ機会を設定する。
- イ 学級活動や分野別学習等の場で、一人ひとりの個性や専門性を生かしながら、交流や協働を促す教育活動を充実させる。
- ウ 教科学習において、ペアやグループでの学習活動を取り入れ、自分たちの考えを伝えたり、深めたりする機会を充実させる。

※(生徒対象)学校教育自己診断、「私は、学級活動や学校行事を通して、楽しく信頼できる仲間づくりを心がけている」の項目で、肯定的な回答の割合を令和7年度には90%以上にする。(R2:86% R3:86% R4:86%)

(3) 自主自立の習慣を育成する

- ア 年度当初に、望ましい学習規律や自主的な学習習慣を身につけさせる指導を行う。また学期ごとに学習計画・生活習慣を確認する取組を進める。
- イ 「挨拶をする」「服装を正す」「時間を守る」について、全教職員で指導し、ルールやマナーを進んで守る集団を育成する。
- ウ 図書館を活用した教育や図書委員会の活動、朝の読書活動を通して、本に親しむ態度を育む。

※(保護者対象)学校教育自己診断、「学校は生徒がルールを守るように適切な指導をしている」の項目で、肯定的な回答の割合を令和7年度には95%を維持する。(R2:93% R3:92% R4:93%)

※(生徒対象)学校教育自己診断、「私は、授業の宿題や課題に対して積極的に取り組んでいる」の項目で、肯定的な回答の割合を令和7年度には90%以上にする。(R2:86% R3:84% R4:84%)

2. 一人ひとりの夢と志を育み、個性と才能を養う

(1) 分野別学習の充実を図り、高等学校・総合学科の系列学習につなげる

- ア 日常の分野別学習とともに、分野別体験活動(修学<研修>旅行)や文化発表会等での取組を通して、分野の専門性をさらに伸ばしていく。
- イ 4つの分野の学習に直接結びついた部活動を通して、分野に関する基礎的内容を定着させるとともに、発展的内容にもチャレンジさせる。

※(生徒対象)学校教育自己診断、「私は、高等学校での系列学習につながるような分野別学習に積極的に取り組んでいる」の項目で、肯定的な回答の割合を令和7年度には90%以上にする。(R2:83% R3:77% R4:86%)

※(生徒対象)学校教育自己診断、「学校は、特色ある分野別学習や部活動などの教育活動がある」の項目で、肯定的な回答の割合を令和7年度には95%を維持する。(R2:95% R3:95% R4:95%)

(2) 高等学校と連携し、6年間を見通した体系的、継続的なキャリア教育を行う

- ア 高等学校と連携した教育や高校生との交流の中で、生徒が将来の進路や職業について考える機会を設け、基礎的・汎用的能力を育成する。
- イ 進路に関する講演や系列別ガイダンス、職業体験学習を通して、主体的に進路を選択しようとする意志や態度を養う。

※全国学力・学習状況調査において「将来の夢や目標を持っていますか」の項目で、肯定的な回答の割合を令和7年度には80%以上にする。(R2:未実施 R3:76% R4:69%)

※(生徒対象)学校教育自己診断、「将来の進路や職業について考えている」の項目で、肯定的な回答の割合を令和7年度には75%以上にする。(R2:66% R3:63% R4:73%)

3. 安全で、安心して学べる学校づくりに努める

(1) 生徒・保護者が安心できる、安全な教育環境づくりに努める

- ア いじめについてのアンケートや教育相談等を通して、いじめの未然防止、早期発見、組織対応に努める。心理テストの分析結果に基づくアセスメント等を通して支援が必要な生徒を的確に把握する。
- イ 自然災害や犯罪、薬物乱用、交通安全、情報モラル等の視点から生徒の危機管理能力を高める。

※(生徒対象)学校教育自己診断、「先生は、いじめについて困っていることがあれば真剣に対応してくれる」の項目で、肯定的な回答の割合を令和7年度には90%以上を維持する。(R2:— R3:— R4:90%)

(2) 健康や体力を保持・増進する力を育成する

- ア 保健委員会や体育委員会の活動・給食指導を通して、健康や体力の保持・増進に関する生徒の意識を高める。
- イ スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー等と連携し、生徒の心のケアを図り、不登校の未然防止に努める。

※(保護者対象)学校教育自己診断、「学校は健康管理の指導に努めている」の項目で、肯定的な回答の割合を令和7年度には90%以上にする。(R2:84% R3:83% R4:84%)

(3) 人権教育を推進し、公平で公正な社会を実現しようとする意欲を培う

府立咲くやこの花中学校

- ア 様々な教育活動において、生徒の人権意識を高めるための指導を行う。高等学校とも連携し、人権教育に関する研修を行う。
イ 3年間を見通した上で、人権的な課題をテーマにした総合的な学習を実施する。

※(保護者対象) 学校教育自己診断、「学校は相手を思いやり人権を大切に作る生徒の育成に努めている」の項目で、肯定的な回答の割合を令和7年度には90%以上にする。(R2:79% R3:87% R4:88%)

4 組織力を向上させ、開かれた学校づくりを進める

(1) 働き方改革を推進する

- ア 業務の効率化を進め、教職員の長時間労働を縮減していくとともに、高いコンプライアンス意識に基づいた、働きやすい職場環境づくりに努める。
イ 産業医や学校医からの助言をふまえて、生徒や教職員の健康・安全に配慮した職場環境づくりに努める。

※時間外勤務月80時間以上の教職員の割合を令和7年度には10%以下を維持する。(R2:— R3:12% R4:9%)

(2) 家庭、地域、専門機関と連携した教育活動を行う

- ア 授業参観(各教科・分野別学習)や学期末懇談会、学校行事の見学等の機会を通して、保護者の学校教育への理解を促す。
イ 4つの分野で、全国レベルのコンクールへの出場や出展をはじめ、外部の専門機関や企業等と連携した活動を実施する。
ウ 地域の協力を得ながら、社会と連携した貢献的な活動を実施する。

※(保護者対象) 学校教育自己診断、「学校は、雰囲気がよく生徒がいきいきと学校生活を送っている」の項目で、肯定的な回答の割合を令和7年度には95%以上にする。(R2:95% R3:94% R4:94%)

(3) 情報発信・研究活動を充実させる

- ア 本校の特色や魅力、生徒の学校生活の様子について、学校ホームページやパンフレット、ポスター等を通して、積極的な情報発信や広報活動を行う。
イ 先進的な研究を行っている学校への研究視察や校内研修を通して、教職員の職能開発を進める。

※(生徒対象) 学校教育自己診断、「咲くやこの花中学校へ入学してよかった」の項目で、肯定的な回答の割合を令和7年度には95%以上にする。(R2:— R3:— R4:91%)

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和5年12月実施分]	学校運営協議会からの意見
<p>【保護者による回答】</p> <p>学校の様子をお伝えする機会が増えたことにより、「学校の授業参観や学校行事に参加して、子どもの様子が把握できている」の項目では前年度の74%から本年度は83%となり、9ポイント上昇した。「学校は雰囲気よく生徒がいきいきと学校生活を送っている」94%、「学校は、特色ある分野別学習や部活動などの教育活動がある」94%とあり、比較的高いレベルでの肯定的回答となっている。</p> <p>【生徒による回答】</p> <p>「学校は、雰囲気よく生徒もいきいきと学校生活を送っている」「学校は、特色ある分野別学習や部活動などの教育活動がある」「学校は、生徒の意見や期待に応えようとしている」の三つの項目において、肯定的な回答が95%であった。本校の特色ある教育を活かしながら、積極的に学校生活を充実させていこうとする意識が見られる。</p> <p>一方で「私は、日々の学習を通して学力の向上が感じられる」、「私は、将来の進路や職業について考えている」の二つの項目での肯定的回答は77%であった。自己の将来について考える場面や自分の学びを省察する機会を質・量ともに拡充していくことが必要である。また、「私は、毎日給食を食べることに満足している」の項目での肯定的回答は76%であった。栄養教諭の講話や授業等も生かしながら、給食指導をはじめ、食育教育の推進に努めていきたい。</p>	<p>第1回(令和5年6月7日)</p> <ul style="list-style-type: none"> 多様な才能や個性を持った生徒が在籍している学校として、今までの教育活動を継承しながらも、効率的かつ効果的な学校運営に取り組んでいただきたい。 様々な場面で、生徒の目線での対応を基本としながら、安全で安心できる学校づくりに取り組んでいただきたい。 中高一貫教育校としての特性を生かし、めざす学校像について、本年度、時間をかけて再構築に努めていただきたい。 <p>第2回(令和5年10月25日)</p> <ul style="list-style-type: none"> 校則について、様々な観点から議論されている状況を聞いて、とても理解ができるとともに、時代に合った校則の見直しに期待したい。 他県の中高一貫教育校への視察について、教職員がより一層の研鑽に努めていただき、今後のめざす学校像をもとにさらなる発展に期待したい。 働き方改革について、昨年度と比較して、時間外在校等の時間は減少傾向にある。今後とも生徒との関りを充実するためにも、教職員一人ひとりの健康管理に取り組んでいただきたい。 <p>第3回(令和6年1月31日)</p> <ul style="list-style-type: none"> 中高の図書館が充実しており、図書を活用を推進していくとともに読書教育に関する指導・評価の工夫改善を進めていただきたい。 中学校における四つの分野のあり方とともに、高等学校・総合学科の六つの系列のあり方について、中長期の視点に立って検討をすすめていただきたい。 学校教育自己診断について、四つの分野ごとに集計し、分析することで、新たな発見があるのではないかと推察する。

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標[R4年度値]	自己評価
1 特色ある教育環境のもと、学びと育ちの質を高める	(1) 確かな学力を育成する	<p>ア 校内研究授業や授業アンケート(1学期・2学期)を活用し、「主体的・対話的で深い学び」や「教科等横断的な学び」「言語活動の充実」等の視点を生かした授業・単元の工夫・改善を進めていく。</p> <p>イ ICT環境を充実させるとともに、1人1台端末をはじめ、ICT機器やデジタル教材を有効に活用した授業を実施する。また、ICTを活用した「個別最適な学び」や「協働的な学び」に関する研修を行う。</p> <p>ウ 学力調査(全国学力・学習状況調査、大阪府チャレンジテスト、学力推移調査)などを活用し、生徒の学力実態や学習の状況を把握することで、授業改善を進め、基礎学力、言語</p>	<p>ア 主体的・対話的で深い学びの視点を生かした校内研究授業を全員の教員が年間1回以上実施する。 [R4全員実施]</p> <p>イ (生徒対象)学校教育自己診断、「私は、1人1台端末を効果的に活用している」の項目で、肯定的な回答の割合を90%以上にする。 [R4 88%]</p> <p>ウ (生徒対象)学校教育自己診断、「日々の学習を通して学力の向上が感じられる」の項目で、肯定的な回答の割</p>	<p>ア 高等学校の教員の参加も得て、計11回実施した。どの授業においても、教材や学習活動等において創意・工夫がみられた(○)</p> <p>イ 日常的に、ICT(1人1台端末・電子黒板等)を活用した授業を実施している。生徒対象の学校教育自己診断において肯定的回答は87%であった。(△)</p> <p>ウ 年に2回(4月・11月)、中高一貫校学力推移調査を行い、生徒に学力に関する推移を確認させた。11月9日(木)に、教育産業と連携し、教員対象の学力推移調査の分析会を实</p>

府立咲くやこの花中学校

	<p>(2) 高め合う集団を育成する</p> <p>(3) 自主自立の習慣を育成する</p>	<p>能力のよりいっそうの定着を図る。</p> <p>ア 学校行事や委員会活動への取組を通して、集団の中で役割を分担しながら、チームワークやリーダーシップについて学ぶ機会を設定する。</p> <p>イ 学級活動や分野別学習、部活動等の場で、一人ひとりの個性や専門性を生かしながら、交流や協働を促す教育活動を充実させる。</p> <p>ウ 教科学習において、ペアやグループでの学習活動を取り入れ、自分たちの考えを伝えたり、深めたりする機会を充実させる。</p> <p>ア 年度当初に、望ましい学習規律や自主的な学習習慣を身につけさせる指導を行う。また学期ごとに学習計画・生活習慣を確認する取組を進める。</p> <p>イ 「挨拶をする」「服装を正す」「時間を守る」について、全教職員で指導し、ルールやマナーを進んで守る集団を育成する。</p> <p>ウ 図書館を活用した教育や図書委員会の活動、朝の読書活動を通して、本に親しむ態度を育む。</p>	<p>合を80%以上にする。 [R4 75%]</p> <p>ア 中高合同授業を1回以上設定する。 [R4 1回]</p> <p>イ 全国学力・学習状況調査において「自分には、よいところがあると思いますか」の項目で、肯定的な回答の割合について80%以上を維持する。 [R4 79%]</p> <p>ウ 全国学力・学習状況調査において「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり広げたりすることができていますか」の項目で、肯定的な回答の割合を85%以上にする。 [R4 82%]</p> <p>ア (生徒対象) 学校教育自己診断、「日々の学校生活を通して、正しい学習態度が身につくよう努力している」の項目で、肯定的な回答の割合を85%以上にする。 [R4 82%]</p> <p>イ (生徒対象) 学校教育自己診断、「学校のルールをすすんで守るように心がけている。」の項目で、肯定的な回答の割合について86%を維持する。 [R4 86%]</p> <p>ウ 全国学力・学習状況調査において「読書は好きですか」の項目で、肯定的な回答の割合を令和7年度には75%以上にする。 [R4 70%]</p>	<p>施した。生徒対象の学校教育自己診断において肯定的回答は77%であった。(△)</p> <p>ア 12月20日に、高等学校の演劇科・3年生の生徒が中学2年生を対象にワークショップ型授業を行った(○)</p> <p>イ R5全国学力・学習状況調査において、肯定的な回答は82%であった。(○)</p> <p>ウ R5全国学力・学習状況調査において肯定的な回答は84%であったが、どの教科においても、ペアやグループ学習が取り入れられ、対話的な学習が充実してきている。(○)</p> <p>ア 4月当初に「学びの型」を全生徒に配布した。「授業者スキル」「担任スキル」を教員で共有した。生徒対象の学校教育自己診断において肯定的回答は82%であった。(△)</p> <p>イ 登校時、正門の前で、高等学校生活指導部とともに遅刻や服装の指導、挨拶指導を行った。併せて月に1度、月曜日の中学集会において、頭髪・服装検査を実施した。生徒指導部を中心に「校則の見直し」を進めている。生徒対象の学校教育自己診断において肯定的回答は88%であった。(○)</p> <p>ウ 朝の読書活動、図書委員会による啓発活動を実施している。R5全国学力・学習状況調査において肯定的回答は67%であった。(△)</p>
<p>2 一人ひとりの夢と志を育み、個性と才能を養う</p>	<p>(1) 分野別学習の充実を図り、高等学校・総合学科の系列学習につなげる</p> <p>(2) 高等学校と連携し、6年間を見通した体系的、継続的なキャリア教育を行う</p>	<p>ア 日常の分野別学習とともに、分野別体験活動(修学<研修>旅行)や文化発表会等での取組を通して、分野の専門性をさらに伸ばしていく。</p> <p>イ 4つの分野の学習に直接結びついた部活動を通して、分野に関する基礎的内容を定着させるとともに、発展的内容にもチャレンジさせる。</p> <p>ア 高等学校と連携した教育や高校生との交流の中で、生徒が将来の進路や職業について考える機会を設け、基礎的・汎用的能力を育成する。</p> <p>イ 進路に関する講演や系列別ガイダンス、職業体験学習を通して、主体的に進路を選択しようとする意志や態度を養う。</p>	<p>ア (生徒対象) 学校教育自己診断、「高校での系列学習につながるよう分野学習に積極的に取り組んでいる」の項目で、肯定的な回答の割合を88%以上にする。 [R4 86%]</p> <p>イ (生徒対象) 学校教育自己診断、「私は、部活動に積極的に取り組んでいる」の項目で、肯定的な回答の割合を95%以上にする。 [R4 92%]</p> <p>ア 高校生や卒業生による進路に関する講話を3回以上実施する。 [R4 1回]</p> <p>イ 職業体験学習を3年生で1回実施する。 [R4 未実施]</p>	<p>ア 木曜日の5・6時間目、高等学校の協力を得て、計画通りに分野別学習を実施している。生徒対象の学校教育自己診断において肯定的回答は88%であった。(○)</p> <p>イ 計画通りに部活動を実施することができた。生徒対象の学校教育自己診断において肯定的回答は92%であった。(△)</p> <p>ア 12月7日(木)、美術・デザイン分野(2年生)の分野別学習において、本校を卒業した大学生による進路講話を実施した。3月に高校生による進路講話を実施する予定。(△)</p> <p>イ 進路に関する講演 ・3年生の職業体験学習は、本年度は中止し、それ変わるものとして外部から講師を招いて進路学習を実施した。 ○11月17日(金) 保険会社「わたしのライフデザイン」 ○12月6日(水) 万博サクヤヒメ会議×大阪商工会議所「きかせて!サクヤヒメ先生」 ○12月17日(水) 人材派遣会社「はたらくを考えるワークショップ」(○)</p>

府立咲くやこの花中学校

<p>3 安全で、安心して学べる学校づくりに努める</p>	<p>(1) 生徒・保護者が安心できる、安全な教育環境づくりに努める</p> <p>(2) 健康や体力を保持・増進する力を育成する</p> <p>(3) 人権教育を推進し、公平で公正な社会を実現しようとする意欲を培う</p>	<p>ア いじめについてのアンケートや心理テスト、教育相談等を通して、いじめの未然防止、早期発見、組織対応に努める。</p> <p>イ 自然災害や犯罪、薬物乱用、交通安全、情報モラル等の視点から生徒の危機管理能力を高める。</p> <p>ア 保健委員会や体育委員会の活動・給食指導を通して、健康や体力の保持・増進に関する生徒の意識を高める。</p> <p>イ スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー等と連携し、生徒の心のケアを図り、不登校の未然防止に努める。</p> <p>ア 様々な教育活動において、生徒の人権意識を高めるための指導を行う。高等学校とも連携し、人権教育に関する研修を行う。</p> <p>イ 3年間を見通した上で、人権的な課題をテーマにした総合的な学習を実施する。</p>	<p>ア 心理テストを全学年で2回以上実施し、分析結果を指導に生かす。 [R4 2回]</p> <p>イ (生徒対象) 学校教育自己診断、「私は、命の大切さや社会のルールについて学ぶ機会がある」の項目で、肯定的な回答の割合を90%以上にする。 [R4 89%]</p> <p>ア (生徒対象) 学校教育自己診断、「私は、自分の健康管理を心がけている」の項目で、肯定的な回答の割合を82%以上にする。 [R4 81%]</p> <p>イ スクールカウンセラーによる授業を1回以上実施する。 [R4 1回]</p> <p>ア (生徒対象) 学校教育自己診断、「私は、相手を思いやり人権を大切にすることができている」の項目で、肯定的な回答の割合を90%以上にする。 [R4 87%]</p> <p>イ 人権をテーマとする総合的な学習を2回以上実施する。 [R4 1回]</p>	<p>ア 6月と11月に hyper-QU を実施した。結果については、教職員全体で共有した。また、いじめアンケートを各学期に1回ずつ、計3回実施した。(○)</p> <p>イ 10月27日(金)に、学校薬剤師による薬物乱用教室を実施した(2年生)。生徒対象の学校教育自己診断において肯定的回答は89%であった。(△)</p> <p>ア 11月6日(月)に、栄養教諭による食育指導(食をテーマにした講演)を実施した。また、11月14日(火)に1年生を対象に、栄養教諭と家庭科教諭との共同授業を実施した。生徒対象の学校教育自己診断において肯定的回答は83%であった。(○)</p> <p>イ 日程の関係でスクールカウンセラーによる授業は実施できなかった。5月19日(金)、10月13日(金)、2月9日(金)に、SC、SSWによる校内研修及び情報交換会を実施した。(△)</p> <p>ア 9月13日(水)に、ハンセン病に関する人権講話、1月12日(金)に、「めぐみ」を視聴し、拉致被害者に関する学習を実施した。生徒対象の学校教育自己診断において肯定的回答は87%であった。(△)</p> <p>イ 10月12日(木)に、中高合同の人権講演会、10月25日(水)に、2・3年生対象の人権講演会を実施した。(○)</p>
<p>4 組織力を向上させ、開かれた学校づくりを進める</p>	<p>(1) 働き方改革を推進する</p> <p>(2) 家庭、地域、専門機関と連携した教育活動を行う</p> <p>(3) 情報発信・研究活動を充実させる</p>	<p>ア 業務の効率化を進め、教職員の長時間労働を縮減していくとともに、高いコンプライアンス意識に基づいた、働きやすい職場環境づくりに努める。</p> <p>イ 産業医や学校医からの助言をふまえて、生徒や教職員の健康・安全に配慮した職場環境づくりに努める。</p> <p>ア 授業参観(各教科・分野別学習)や学期末懇談会、学校行事の見学等の機会を通して、保護者の学校教育への理解を促す。</p> <p>イ 4つの分野で、全国レベルのコンクールへの出場や出展をはじめ、外部の専門機関や企業等と連携した活動を実施する。</p> <p>ウ 地域の協力を得ながら、社会と連携した貢献的な活動を実施する。</p> <p>ア 本校の特色や魅力、生徒の学校生活の様子について、学校ホームページやパンフレット、ポスター等を通して、積極的な情報発信や広報活動を行う。</p> <p>イ 先進的な研究を行っている学校への研究視察や校内研修を通して、教職員の職能開発を進める。</p>	<p>ア 時間外勤務月80時間以上の職員の割合について10%以下を維持する。 [R4 9%]</p> <p>イ (保護者対象) 学校教育自己診断、「学校は、健康管理への指導に努めている」の項目で、肯定的な回答の割合を85%以上にする。 [R4 84%]</p> <p>ア (保護者対象) 学校教育自己診断、「学校の授業参観や学校行事に参加して、子どもの様子が把握できている」の項目で、肯定的な回答の割合を80%以上にする。 [R4 74%]</p> <p>イ 外部の機関と連携した教育活動を5回以上実施する [R4 3回]</p> <p>ウ 清掃活動や社会啓発活動に1回以上取り組む。 [R4 1回]</p> <p>ア (保護者対象) 学校教育自己診断、「学校は、ホームページ・プリントなどで情報をよく流している」の項目で、肯定的な回答の割合を95%以上にする。 [R4 94%]</p> <p>イ 先進的な研究校への視察を2回以上実施する。 [R4 1回]</p>	<p>ア 様々な取り組み(ノークラブデー、一斉退庁日、こまめな声かけ等)により、現在、月80時間以上の職員の割合は6%となっている。(◎)</p> <p>イ 月1回、学校医より保健管理、健康管理、健康診断の事後措置等、助言や指導を行っていただいている。保護者対象の学校教育自己診断において肯定的回答は86%であった。(○)</p> <p>ア 百人一首大会(7月3日)や咲く花陸上・ダンス大会(10月6日)、文化発表会(10月20日)等に、保護者にご参観いただいた。また、11月2日(木)に、分野別授業参観・総合学科説明会を実施した。保護者対象の学校教育自己診断において肯定的回答は83%であった。(○)</p> <p>イ 外部の機関と連携した教育活動を5回実施した。(○)</p> <p>ウ JR西九条駅と連携した清掃活動を1回実施した。(○)</p> <p>ア 保護者対象の学校教育自己診断において肯定的回答は95%であった。(○)</p> <p>イ 研究視察を3回実施した。報告書をもとに全教員で情報共有した。(◎)</p>